

付録 2 耐風 2 次診断票の例示

次頁に耐風 2 次診断票の様式の例を示す。診断票の構成は付表 2.1 のとおりであり、第 3 章に示す手順にしたがって第一面に事前調査、第二面に現況調査、第三面に風荷重・残存耐力の算定と損傷可能性の診断の各項目が示されている。この様式では調査から診断までの一覧性を優先し、各項目の詳細は第一面～第三面とは別に「別紙」で補足するものとした。別紙の中には屋根ふき材の製品供給業者や関係団体が別途定める調査・診断票も含まれる。

付表 2.1 耐風 2 次診断票の構成

構 成	調査・診断内容の区分
第一面	① 事前調査
第二面	② 現況調査
第三面	③ 風荷重の算定 ④ 残存耐力の算定 ⑤ 損傷可能性の診断
別 紙	・ 目視・触診による各部位の劣化や不具合の状況の詳細 ・ 保持力試験の実施位置がわかる屋根平面図 ・ 保持力試験結果の詳細 ・ 風荷重、残存耐力の算定方法の詳細 ※ 上記に製品供給業者や関係団体が定める調査・診断票の様式も含まれる。

(第一面)

区分	項目	記入欄		
①事前調査	建築物の概要	名称		
		所在地		
		用途	☐ 戸建住宅、 ☐ 集合住宅、 ☐ 店舗、 ☐ 事務所、 ☐ 庁舎等公共施設、 ☐ 工場 ☐ 倉庫、 ☐ 体育館、 ☐ その他()	
		建築年	☐ 建築年_____年(築年数_____年)、 ☐ 不明	
		構造種別	☐ 木造、 ☐ 鉄骨造、 ☐ 鉄筋コンクリート造、 ☐ その他()	
		階数・高さ	_____階・_____m	
		屋根形状・勾配	☐ 切妻、 ☐ 片流れ、 ☐ 寄棟、 ☐ その他()	
			_____度(_____寸勾配)	
	屋根ふき工法の種別	☐ 瓦ぶき、 ☐ 金属板ぶき、 ☐ 折板ぶき、 ☐ 住宅屋根用化粧スレートぶき ☐ その他()		
	・新築時の設計図書	所在の有無	☐ あり、 ☐ なし・不明	
		屋根ふき材の技術資料	☐ あり(以下に記入)、 ☐ なし・不明	
			技術資料の名称:	
	屋根の維持管理	実施の有無	☐ 実施(以下に記入)、 ☐ 未実施・不明	
		概要	実施年_____年 ※直近の実績 実施概要:	
	耐風1次診断	実施の有無	☐ 実施(以下に記入)、 ☐ 未実施	
		診断結果	H指標	☐ H-1、 ☐ H-2、 ☐ H-3
			V指標	☐ V-1、 ☐ V-2、 ☐ V-3、 ☐ V-4
			強風被害リスクが ☐ 大きい、 ☐ やや大きい	

※)必要に応じて、各詳細を別紙に示すこと。

(第二面)

区分	項目	記入欄									
② 現況調査	調査日時	____年____月____日 午前・午後 ____時 (調査回数____回目)									
	調査者	保有資格:									
	目視・触診	屋根ふき材	種類と仕様 種類(製品名称等): 仕様(板厚・緊結間隔等):								
			現行の技術基準等への適合状況 □ 適合、□ 不適合、□ 不明								
			劣化や不具合の有無 □ あり (□ 一般部、□ 一般部以外、詳細は別紙)、□ なし、□ 不明								
		接合具	種類と仕様 種類(製品名称等): 仕様(板厚・緊結間隔等):								
			現行の技術基準等への適合状況 □ 適合、□ 不適合、□ 不明								
			劣化や不具合の有無 □ あり (□ 一般部、□ 一般部以外、詳細は別紙)、□ なし、□ 不明								
		下地	種類と仕様 種類(製品名称等): 仕様(板厚等):								
			現行の技術基準等への適合状況 □ 適合、□ 不適合、□ 不明								
			劣化や不具合の有無 □ あり (□ 一般部、□ 一般部以外、詳細は別紙)、□ なし、□ 不明								
	保持力試験	実施の有無	□ 実施(以下に記入)、□ 未実施								
		機器名称									
		試験箇所	____箇所(詳細は別紙)								
		試験結果	詳細は別紙								
判断	<table border="1"> <thead> <tr> <th>劣化等状況 技術基準等への適合状況</th><th>現に劣化や不具合が顕著である</th><th>劣化や不具合がある</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>不適合</td><td>◎</td><td>◎, ○, △</td></tr> <tr> <td>適合</td><td>—</td><td>○, △</td></tr> </tbody> </table> (凡例)◎:改修を要すると判断、○:調査結果に基づく診断を行った上で、改修の要否を判断、△:改修を当面要さず、修繕等で対応すると判断 □ ◎に該当 ⇒ <u>改修を計画</u>(第三面の診断等は必要に応じて実施) □ ○に該当 ⇒ 第三面の診断等を実施 □ △に該当 ⇒ 修繕等を計画(第三面の診断等は不要)		劣化等状況 技術基準等への適合状況	現に劣化や不具合が顕著である	劣化や不具合がある	不適合	◎	◎, ○, △	適合	—	○, △
	劣化等状況 技術基準等への適合状況	現に劣化や不具合が顕著である	劣化や不具合がある								
不適合	◎	◎, ○, △									
適合	—	○, △									
(判断の所見)											

※)必要に応じて、各仕様等の詳細を別紙に示すこと。

(第三面)

区分	項 目	記 入 欄		
③ 風荷重の算定	屋根平均高さ	_____ m		
	建設地の基準風速	_____ m/s		
	地表面粗度区分	☐ I、 ☐ II（海岸線からの距離が概ね200m以下の場合を含む） ☐ III、 ☐ IV		
	平均速度圧 q_H	_____ N/m^2		
	ピーク風力係数 $C_p^{\wedge}$ ($=C_{pe}^{\wedge}-C_{pi}^{\wedge}$)	対象部位	☐ 一般部、 ☐ 軒・けらば部、 ☐ 棟部	
		外圧 $C_{pe}^{\wedge}$	_____	
		内圧 $C_{pi}^{\wedge}$	_____	
風荷重 $W (=q_H C_p^{\wedge})$	_____ N/m^2			
④ 残存耐力の算定	算定方針	☐ 目視・触診の結果に基づく、 ☐ 保持力試験の結果に基づく		
	果 目 に 視 基・ づ 触 診 診 場 の 結	許容耐力の基本値 R_0	_____ N/m^2 参照した技術資料の名称:	
		耐力低減 係数 k_d	劣化等の 確認部位	☐ 屋根心き材、 ☐ 接合具、 ☐ 下地
			劣化等の状態	_____
			設定の根拠	_____
		_____ (≤ 1.0)		
	残存耐力 $R_d (=R_0 k_d)$		_____ N/m^2	
	果 保 に 持 基 力 づ 試 験 験 場 の 結	破壊荷重の平均値 R_t	_____ N/m^2	
		安全率 a	設定の根拠	_____
			_____ (> 1.0)	
残存耐力 $R_d (=R_t/a)$		_____ N/m^2		
⑤ 損傷可能性の診断	耐力評点 $S (=R_d/W)$	_____		
	耐力評点 S	強風に対する損傷可能性	診断結果に基づく対応	
	$1.0 \leq S$	☐ 低い	⇒ 改修を要しない (必要に応じて修繕等に対応)	
	$0.7 \leq S < 1.0$	☐ やや高い	⇒ <u>改修の要否について、居住者等と協議</u>	
	$S < 0.7$	☐ 高い	⇒ <u>改修を計画</u>	
(診断・対応の所見)				

※)必要に応じて、算定方法の詳細を別紙に示すこと。